

建築設計製図 / 第一

Sophomore Studio Work: 1

別荘を設計する

Designing a Villa

- 担当教員: Yoshitaru TSUKAMOTO (Prof.)
- 塚本由晴 [教授]: Tatsuo YAMAZAKI (Associate Prof.)
- 山崎絹介 [准教授]: Fuminori NOUSAKU (Assistant Prof.)
- 能作文徳 [助教]: Mio TACHIBANA (Assistant Prof.)
- 立花美緒 [助教]:
- TA: Taimour SENBEL [D2], Noemi Gomez LOBO [D1], Tomoki SHODA [M2], Tomoya NISHIMURA [M2]
- タイムールセベル [D2]:
- ノエミゴメズロボ [D1]:
- 正田智樹 [M2]:
- 西村剛也 [M2]:

課題主旨 本課題は木造住宅のトレース及び設計課題を軸に、並行して2つの小課題に取り組むことで住宅建築について学ぶことができるよう構成されている。まず鉛筆、インキによるアントン・レモンド設計のカニングハム邸のトレース課題を通して、木造住宅の造りを具体的に学ぶ。小課題では、次のテーマに沿ってリサーチを行う。1つ目は住宅の構造と形式の関係に着目した課題。町家型やコートハウス型など住宅の形式には歴史的に形成された一定の型があることを学び、建築家による住宅作品や伝統的な民家から、どのように形式に蓄積された知恵を引き出し、木造や鉄骨造といった構造との関係において実現及び展開しているかについて考える。2つ目は敷地の周辺環境の理解を深める課題。設計課題の敷地を、湖畔、森林、海岸など自然環境に立地する場所から各自で設定する。気候、風土、眺望、建築の形式等の周辺環境を調査し、配置図やスケッチで表現する。これらを経て家族のための別荘を設計する。建築面積は100㎡程度、構造は木造軸組工法とし、ゲストが泊まれるようにすることを条件とする。

ASSIGNMENT The studio consisted of two assignments: tracing plans and sections of a Japanese contemporary house and designing a villa for their families in a natural environment such as a lakeshore, forest, etc. In addition, two topics of research were assigned: firstly, the relationship between housing types such as a townhouse, courtyard house, etc. and their construction system. Secondly, it included an analysis of the chosen site focusing on how to interpret and adopt the surrounding conditions.

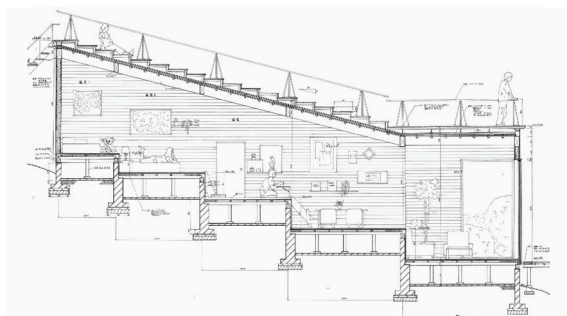


講評 設計課題では自分の家族をクライアントに設定して敷地を探し、敷地の気候風土や眺望、周辺建物を観察して場所の特徴を理解し、さらに自分の家族のライフスタイルの可能性を上げる住宅を考えてもらう。芥川家は敷地の斜面に沿うように床の段差や屋根の傾斜が設定された上で、高低差を利用して寝室やダイニングなどの居場所が設けられ、屋根面のダイナミックな大階段から竹園の海の眺めが楽しめる。道路側からの立面や屋根へのアクセスに一つ工夫が欲しかった。大貫家は2羽のインコと共に住む家である。敷地形状に沿って折れ曲がった切妻の片側のガラスの温室の中に鳥が留まる樹木が植えられ、もう一方には人の住まいがあり、屈曲部分に人と鳥が共存するテラスがある。屈曲した部分に鳥と樹木と人間が緩やかに共存する構成が面白いが、階段や水回りもこの構成にうまく組み込めればよかった。木原家は、食卓会場と台所、寝(寝室と水回り)、茶室が分棟になる構成で、開かれた中庭に面して縁側が設けられている。それぞれに入居層、寄棟、方形の屋根が架かる。それぞれの建物の配置と外構が密接に関係づけられるとよかった。小林家は緩やかな斜面に切妻屋根が張り出す堂々とした佇まいである。半階ずれた内部の床や外のテラスを階段でつなぎ、居間と食堂の間の段差をベンチとする。どの居場所にも十分な広さと立体的な繋がりがある緻密な設計である。近藤家は4つのコンクリートのコアから大断面の梁を渡した方強い構成である。それぞれのコア、床どうしが少しずつずれて配置されることで、立体的な斜め方向の抜けができていく。図面の完成度を上げて欲しかった。長沼家は擁壁状に造成された地形を建物にも応用しよう、立体的な南側テラスや内部空間のスキップフロアが設けられている。段差を利用して半階理まった浴室や中間階の画廊などの工夫があるが、建物の外形にもうまく表れて欲しかった。番場家は葉山の海を望む敷地に、1階にひとつながりの家族の居場所、大きな縁側があり、海水浴から戻ってきて過ごすには心地よさそうである。しかし2階はこの居心地の良い1階と切り離されてしまった。木宿家は軽井沢の林の中に1辺9.1mの正方形平面上に大きな方形屋根が架かる。居間と和室が連続するサンプルでゆったりとした構成であり、大きな建具が戸袋に全て引き込めるよう工夫されている。建物の中で台所が貧弱になっていないか。 [制作文庫]

- 敷地条件**
- 計画地: 湖畔、森林、海岸など自然環境に立地する場所を各自で設定
 - 敷地面積: なし
 - 敷地境界を明示する必要はないが、周辺環境に留意した外構計画とする
- 課題条件**
- 1 家族のための別荘を設計する
 - 2 木造軸組工法とする
 - 3 建築面積は100㎡程度とする
 - 4 ゲストが泊まれるようにする
- 提出物**
- 各タイプ/設計主旨 [配置図 1/50 1階平面図(原案)] 各階平面図 1/50 屋根伏図(幅尺自由) 立面図 1/50 (2面以上) 断面図 1/50 (2面以上) 矩計図 1/20 (ハース点必須) 軸組模型 1/50 模型写真

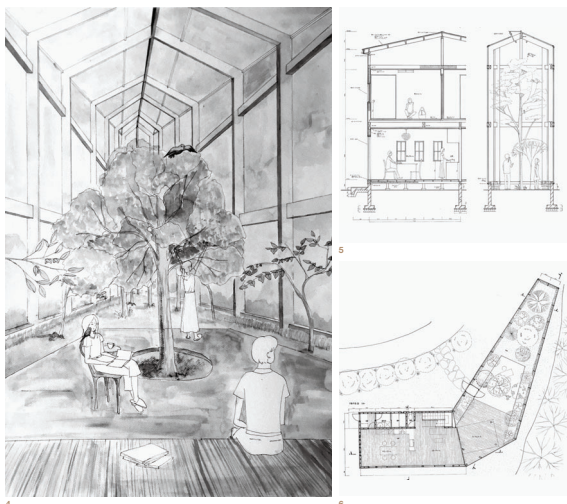
建築設計製図 / 第一 Sophomore Studio Work: 1 別荘を設計する Designing a Villa

タケオカイトウ
芥川蓮生
Haruka AKUTAGAWA



- 1 矩計図
- 2 断面図
- 3 模型写真

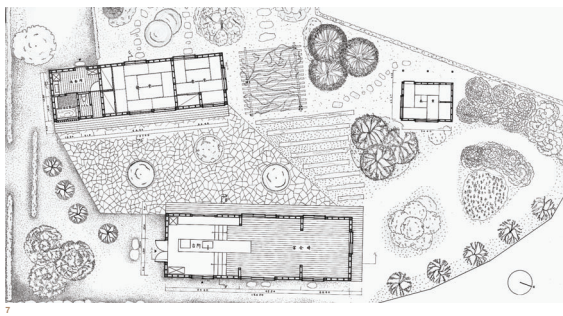
鳥と暮らす家
大貫綾子
Enko ONUKI



- 4 ハース
- 5 断面図
- 6 1階平面図

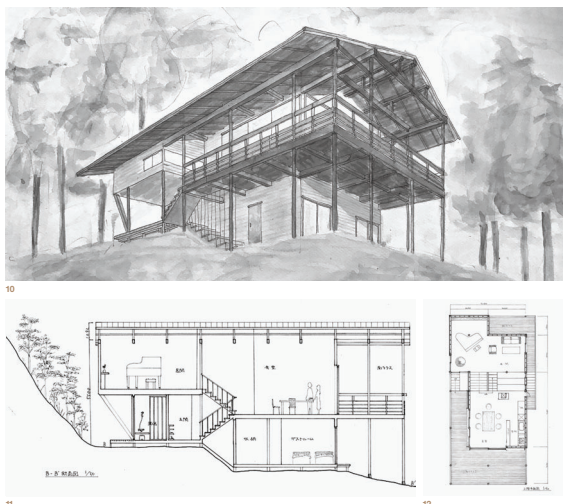
建築設計製図 / 第一 Sophomore Studio Work: 1 別荘を設計する Designing a Villa

集う家
木原葉子
Yoko KIHARA



- 7 平面図
- 8 断面図
- 9 模型写真

爽やかな家
小林由佳
Yuka KOBAYASHI



- 10 ハース
- 11 断面図
- 12 2階平面図